

医療看護の礎築いた先駆者

5月12日は、看護の礎を築いたフローレンス・ナイチンゲール（1820～1910）の誕生日。今年には生誕200年にあたります。日本でも多くの方が伝記などを通じてナイチンゲールの生涯に触れたことがあるでしょう。しかし、クリミア戦争での活躍のイメージが強いナイチンゲールが実際に看護師として働いたのは2年半という短い期間だったことや、90年の長寿を全うするま

での約50年は健康上の理由からベッドの上での生活を余儀なくされながらも看護や統計学、社会改革への提言などに取り組む「8つの顔」が存在したことなど、あまり知られていないこともあります。ナイチンゲールの知られざる顔に迫ります。

企画・制作/福島民友新聞社広告局 制作協力/ナイチンゲール看護研究所



Interview

ナイチンゲール看護研究所 所長 金井 一薫 さん

ナイチンゲール看護研究所(東京)の金井一薫所長に、ナイチンゲールが残した現代に生きる功績や思想などについて聞きました。



「日本ではナイチンゲールの人物像が伝説化されています。実像を教えてください。」

日本では「敵味方なく看病したクリミアの天使」や「自己犠牲の精神」などと定着していますが、いずれも事実とは大きく異なります。戦場で敵味方なく看病した記述はなく、自己犠牲も強要はしていません。「看護の仕事は、快活な、幸福な、希望に満ちた精神の仕事です。犠牲を払ってなどとは決して考えない、熱心な、明るい、活発な女性こそ、本当の看護師といえるのです」。この言葉こそ、ナイチンゲールが看護師に望んだ資質でした。それは、看護職を一つの専門職とするため、看護師に求めたのは奉仕や献身の精神ではなく、大きな責任を自覚できる社会的に自立した精神だったのです。

「ナイチンゲールの功績について伺います。」

クリミア戦争での看護改革も大変大きいですが、ナイチンゲールは生涯で多くの文献を残しました。その内容は、人間が生きる上で必要な普遍的なものが多く、人類史上初めて「看護とは何か」という看護の定義を説いた「看護覚え書」をはじめ統計学や社会学、英国陸軍に関するものなど多岐に及んでいます。看護の分野では、看護の定義を人間が持っている自然治癒力を暮らしの中で高めていくことがポイントであると説きました。それは、医療行為を行う医療と看護は、「車の両輪」のような関係であるという、現代にも通じる考えでもあります。

「現在、新型コロナウイルス感染症が私たちの生活に脅威を与えています。」

現在と時代は違いますが、感染症に対してナイチンゲールは1880年以前から、終始一貫して「感染症は予防できる」と主張していました。清潔で健康的な生活環境と暮らしの営みが重要で、人体内部の環境が健康で免疫力(生命力)があふれ病気を発症させない状態であれば、症状は出ないという考え方に通じる思想を持っていました。それは、現在の新型コロナウイルス対策にも原則は100%当てはまると思います。もし、ナイチンゲールが現状を見たら、「密閉」「密集」「密接」の三密を避けることに加えて、部屋の清潔を保つことや日光を浴びること、生活に変化を与えるための簡単な運動やリラクゼーションなどを提言するかもしれません。

「ことし5月12日は、ナイチンゲール生誕200年に当たります。」

ナイチンゲールが切り開いた現在の看護につながる「看護の歴史」は、まだ長くはありません。しかし、ナイチンゲールの功績や存在、思想が世界中に広がり、今に至っているように感じています。その考えは、いまだに色あせることなく、むしろ21世紀の看護の在り方と人類の健康を思考していく際、大いなる道しるべとなる生命感あふれる思想のように思います。

ナイチンゲールは英国の裕福な家庭に生まれ育ちました。当時の貴婦人には、貧しい人を訪ねて食べ物や薬を与える習慣があり、ナイチンゲールは訪問先で一人の女性の死に遭遇し、病人が置かれた状況を知らず。また、病院は不衛生で、換気が悪く悪臭が漂うのが常でした。ナイチンゲールは、貧窮や病気による悲惨な生活を余儀なくされている人を看護する思いを確固たるものにしていきます。

著述や教育、統計学... 多彩な「顔」で広く活躍

そんな中、クリミア戦争に英国が参戦。この戦争が「ランプの貴婦人」と呼ばれるきっかけになりました。国防相から応援要請を受けたナイチンゲールは、野戦病院に看護団を率いて赴きます。汚物にまみれ、ネズミなどが院内をはい回り、床に転がって死んでいく数千人の兵士たちを前にし、衛生環境の改善やシーツの洗濯、下水処理、栄養の高い食事の提供など、現在の病院では当たり前前のことを実践しました。献身的な看護が続き、夜はランプを持って患者を見回りました。



イギリスの救護院施設
Philippa Stewart (1973).
Florence Nightingale, p. 30.
Wayland Publishers.

結果、1855年2月は42%だった傷病兵の死亡率は同年5月には5%まで激減。ナイチンゲールの奮闘は地元紙で大々的に報じられました。ただ、終

戦後にナイチンゲールは有名を嫌い、偽名を使って帰国。2年弱にわたる野戦病院での厳しい任務を終え、心身ともに衰弱したナイチンゲールでしたが、すぐに英国陸軍兵士の死亡率などを統計的に分析し、感染症など衛生環境の改善によって防げた死があつた事を政府に報告しました。

帰国後は、クリミア熱という感染症と疲労などから病床に伏すことが多かったナイチンゲールが看護者として現場で働いたのは、実質的に2年半しかありません。ただ、彼女の真の姿は、現場で働く看護者としてよりも90歳で亡くなるまでの後半生の約半世紀、医療、看護現場に革命をもたらした多彩な「顔」に見ることができ



ロンドンにあるナイチンゲールの銅像

野戦病院の衛生改善

看護に革命もたらす

90年の人生に幕を下ろした際、地元紙は「ウィクトリア女王の死と並ぶほど甚大な損失で、国葬に値する」と伝えました。英国政府は、親族に国葬を打診しましたが、親族は生前のナイチンゲールの意思を尊重して断りました。有名人扱いをされることを嫌ったからです。

年表

- 1820年 5月12日、両親の旅行中、イタリアのフロレンスで生まれる
- 1843年 夏、リハースト荘近くのハロウェイ村の貧民小屋で病人の看病
- 1845年 ソルスベリー市の病院に行く計画を立てるも、家族が大反対
- 1851年 ドイツのカイゼルスヴェルト学園に滞在して訓練を受ける
- 1853年 ハーレイ街一番地にある淑女病院の総監督に就任
- 1854年 10月、クリミア戦争に従軍。スクタリに向けて出発
- 1856年 8月に帰国。翌月、ヴィクトリア女王に初めて謁見
- 1857年 イギリス統計学会の初の女性会員に選ばれる
- 1858年 陸軍衛生勸奨委員会報告書の出版(統計表が盛り込まれる)
「病院覚え書・第一版」出版
- 1859年 「看護覚え書・第一版」出版
- 1860年 聖トマス病院にナイチンゲール看護師訓練学校を設立
「看護覚え書・第二版(改定版)」出版
- 1867年 「救貧覚え書」出版



80代のナイチンゲール

- 1883年 赤十字勲章を受ける
- 1892年 保健指導員の運動を始める
- 1894年 「町や村での健康教育」出版
- 1907年 有功勲章(オーダー・オブ・メリット)を受ける
- 1908年 ロンドン自由市民権を与えられる
- 1910年 8月13日、90歳で死去

「快活で幸福」な看護師像示す

ナイチンゲールの「8つの顔」

- ◆著述家 150点を超える印刷文献と1万2000通以上の手紙文庫を書き残しました。
- ◆看護の発見者 人類史上初めて「看護とは何か」という看護の定義を明らかにしました。
- ◆教育者 世界初の看護師訓練学校を設立し、教育や管理の形を伝えました。
- ◆優れた管理者 クリミア戦争で看護部門総責任者として療養環境の改善を実践しました。
- ◆衛生改革者 不衛生で不健康な生活環境への国民意識改革などに養生を費やしました。
- ◆病院建築家 著作で換気、太陽光の重要性などを説き、実際に建築にも携わりました。
- ◆統計学者 兵士の死因究明を統計的に立案し、病院統計の考えを確立させました。
- ◆ソーシャルワーカー 根本的な貧困対策の提案書をまとめた「貧窮救済法」成立に尽力しました。